

月刊しばうら

2018年10月号

大動物事業部

平成30年度全国肉用牛枝肉共励会

開催日 10月26日(金)

平成30年度全国肉用牛枝肉共励会が、来る10月23日～10月26日にわたり開催されます。当共励会は、肉用牛肥育技術の確立と枝肉の肉質向上ならびに経済性の増進に資するため、東京食肉市場に出荷実績を持つ全国各地の出荷者によって肥育された牛が、農林水産大臣賞、東京都知事賞を始めとした数々の栄誉を競います。出品頭数は500頭の上場頭数にて開催され、和牛去勢牛が270頭、乳用去勢牛及び交雑去勢牛が70頭、和牛牝牛160頭を予定しております。出品者並びに買受人の皆様方及び関係各位の皆様方の御来場をお待ちしております。

<行事予定>

10月23日(火) 午前 10時00分より出品牛測定(和牛牝)

24日(水) 午前 8時30分よりと畜解体(和牛牝)

午前 10時00分より出品牛測定

(乳用去勢牛及び交雑去勢牛・和牛去勢牛)

25日(木) 午前 8時30分よりと畜解体

(乳用去勢牛及び交雑去勢牛・和牛去勢牛)

26日(金) 午前 6時30分より枝肉審査

午前 8時45分よりせり販売

午後 2時00分より褒賞授与式

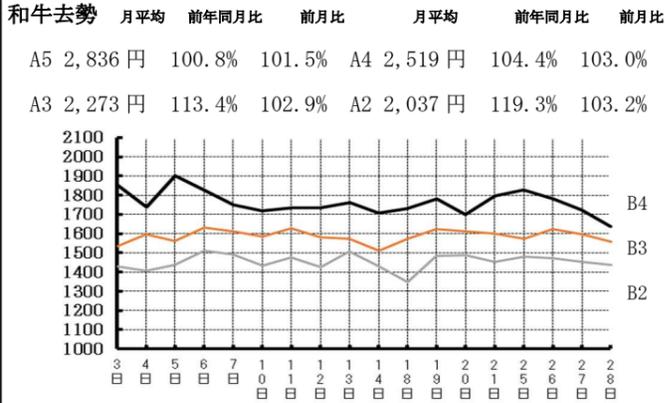
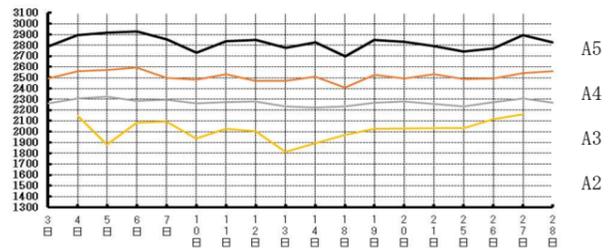
<褒賞授与式会場>

東京都中央卸売市場食肉市場

食肉市場センタービル9階東京都会議室

<9月の相場動向>

和牛去勢 A5 が前月比 41 円高の 2,836 円(前年同月比 22 円高)、A4 が 73 円高の 2,519 円(同 107 円高)、A3 が 65 円高の 2,273 円(同 269 円高)、A2 が 63 円高の 2,037 円(同 329 円高)、交雑牛去勢は B4 が 70 円高の 1,758 円(同 43 円高)、B3 が 42 円高の 1,600 円(同 167 円高)、B2 が 68 円高の 1,457 円(同 315 円高)となり、和牛・交雑牛ともに、前年・前月比を上回った。和牛 2・3 等級のスソ物は強基調相場で、上物規格は枝肉の作りにより価格差が広がっている。交雑牛は、量販店需要で 2 等級を中心に引き合いは依然と強く、引き続き強気な相場形成となっている。



和牛去勢	月平均	前年同月比	前月比	月平均	前年同月比	前月比
A5	2,836 円	100.8%	101.5%	A4 2,519 円	104.4%	103.0%
A3	2,273 円	113.4%	102.9%	A2 2,037 円	119.3%	103.2%
B4	1,758 円	102.5%	104.1%	B3	1,600 円	111.7%
B2	1,457 円	127.6%	104.9%			
B3	上場なし			B2	1,011 円	107.2%

<10月の牛肉輸入量予測>

農畜産業振興機構の予測による10月の牛肉輸入数量は、前年同月比 15.1%増の 4万 9,900t。10月もチルドは、米国産の輸入量減少が続くことから同 1.0%減の 2万 2,000t とわずかに前月を下回っている。フローZENは、豪州産の増加が見込まれることから、32.4%増の 2万 7,700t と大きく増加するとしている。

輸入牛肉通関量		8月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	11,498	10,805	106.4%
	米国	13,377	13,721	97.5%
	その他	1,410	960	146.9%
	合計	26,285	25,486	103.1%
フローZEN	豪州	15,400	15,010	102.6%
	米国	11,430	4,317	264.8%
	その他	4,603	2,044	225.2%
	合計	31,433	21,371	147.1%

単位：t

出典：食肉速報

<10月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による10月の出荷予測頭数は、前年同月比 3.0%増の 9万 3,700 頭と予測している。品種別にみると和牛は 3.8%増の 3万 8,700 頭、交雑種は 6.2%増の 2万 2,400 頭、乳用種は 0.9%減の 3万 1,200 頭で、和牛と交雑種は増加、乳用種は減少を見込んでいる。東京食肉市場の10月と畜頭数は7,600頭を予定しています。

<10月の牛枝肉相場見通し>

量販店需要は引き続き交雑牛主体の流れで堅調に推移すると思われる。和牛はスソ物に引き合いは強い。輸出市場やインバンド需要に依存する上物規格については枝肉仕上がりにより、価格差が大きく広がる相場が予測される。

価格予測					
和牛去勢	A5	2,750～2,850	交雑去勢	B4	1,600～1,700
	A4	2,450～2,550		B3	1,500～1,600
	A3	2,250～2,350		B2	1,400～1,500
	A2	2,000～2,100			
乳牛去勢	B3	1,100～1,150			
	B2	1,000～1,100			

小動物事業部

農畜産業振興機構 7月の豚肉需給動向によると、推定出回り量は、国産品 6万 8,762t(同 101%)、輸入品 8万 466t(同 103.6%)、合計で 14万 9,228t(同 102.4%)と前年同月を上回った。これにより、推定期末在庫は国産品 1万 7,332t(同 119.9%)、輸入品 15万 8,705t(同 98.2%)、合計 17万 6,037t(前年同月並み)となった。

8月の全国と畜頭数は前年同月比 0.6%増の 131万 8,334 頭と前年より増加した。同月の豚肉通関実績は、総量で 7万 9,716t(101.6%)と前年を上回り、前月からは 1,559t 増加した。チルドは 3万 6,939t(同 101.2%)と増加。内訳は、米国が 1万 9,589t(同 101.2%)、カナダは 1万 6,379t(同 101.4%)、メキシコが 962t(同 98.1%)と減少した。同じく、フローZENも 4万 2,777t(同 101.9%)と増加し、内訳は、デンマークが 8,211t(同 85.2%)、スペインが 9,894t(同 114.8%)、メキシコが 6,571t(前年同月並み)、米国が 4,441t(同 126.7%)、カナダが 2,854t(同 122.1%)となった。

<9月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
3日	60,500	520	506	682
4日	61,500	528	500	802
5日	58,700	541	521	625
6日	57,300	535	533	716
7日	56,000	546	520	894
10日	62,500	554	536	595
11日	64,100	565	539	864

上旬の全国と畜頭数は1日あたり6万85頭。

当市場は平均740頭。

例年では出荷頭数が増える時期だが、猛暑の影響により頭数が増えておらず、全体的に荷余り感などは感じられない。一方フローZENは全体的に荷動きが鈍く、在庫過多の状況が続いている。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12日	58,400	557	526	718
13日	65,800	546	515	681
14日	62,900	534	510	927
18日	74,600	546	535	689
19日	69,600	533	501	964

中旬の全国と畜頭数は1日あたり6万6,260頭。

当市場は平均796頭。

2週連続で週末に3連休となり秋の行楽需要に期待がかかるが、消費は鈍い状況。売り場によっては輸入豚肉販売のスペースが増えている状況。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20日	70,100	508	495	656
21日	69,200	495	469	1,035
25日	75,200	471	459	692
26日	71,000	459	430	1,005
27日	71,800	470	431	767
28日	69,300	437	412	1,004

下旬の全国と畜頭数は平均1日あたり7万1,100頭。

当市場は平均860頭。

一部では災害の影響も残るが大きな混乱や、相場への影響はみられない。出荷頭数は増加傾向にあり、全体的に堅調な荷動きをみせている。

チルドは特にロイン系やバラなどの引き合いが強まっており、フローZEN在庫も徐々に絞れてきているため、一時期の余剰感は解消されつつある。

<10月の豚枝肉相場見通し>

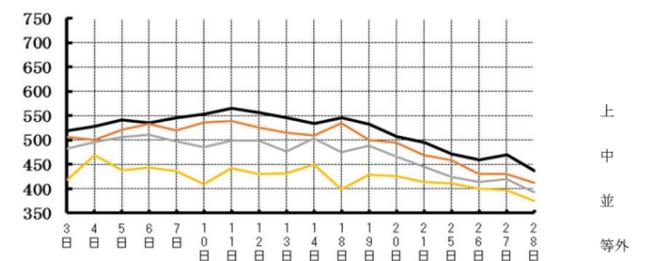
農林水産省による10月の全国と畜頭数予測では、前年比 2%増の 146万 3,000 頭と予測している。過去 5年平均比でも 1%多い。一日当たりの頭数は約 6万 6,500 頭(22日稼働)と前年同月よりも約 1,500 頭少ないが、前年の稼働日が少なかったため、稼働日を合わせると 1,600 頭多い予測である。

当市場の10月の集荷予定頭数は1万7,600頭となっており、一日当たりでは約800頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構によると10月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7万 6,800t(前年同月比 97.9%)の予測となっている。内訳はチルドが 3万 3,000t(同 99.7%)、フローZENは 4万 3,800t(同 96.7%)の予測である。

10月は歳暮に向けての手当てが徐々に出てくることが予想される。気温の低下に伴いスライス需要や秋の行楽需要が見込まれる。しかし連休明けは、徐々に上場頭数は増加し、スソ物などの末端動向によっては、相場の下支え要因なることが期待されるが相場の上げ材料は乏しくなり、日によっては 400 円前後の展開も考えられる。量販店も昨年同様にこの時期は国産で販促を組むことが多いが、多少の需要増加では相場への影響はないだろう。

以上のことから当市場の上物平均価格は 470 円前後、中物平均 440 円前後と予測する。



出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127